

PITP 2019 -Great problems in Biology for Physicists- に参加して 相関基礎科学系 博士2年 佐藤匠哉

総合文化研究科の海外渡航助成制度により、この度アメリカのプリンストン大学高等研究所で行われたサマースクール、Prospects in Theoretical Physics 2019に参加させてもらった。本サマースクールは毎年1回、3年毎に素粒子物理学、社会物理学、そして、今回私が参加した生物物理の3テーマについて順番に開かれている。2週間のサマースクール中は、平日は朝から夜まで生物物理をテーマとした講義が行われる。講義間の時間が豊富にあるため、世界各地から来ている著名な研究者や、同じく講義を受けている参加者達と議論する時間がたっぷり取られていた。特に私の分野を志す若手研究者は少ないため良い機会となった。

講義の内容は多岐にわたっていたが、本サマースクールのメインは癌細胞と免疫であった。私の研究とは少し違ったテーマであったが、多くの講師の人たちは物理学をバックグラウンドにもっているため、自分の研究に対しても非常に示唆に富んだ講義であった。特に、本サマースクールに参加した目的の一つであった、システム生物学の第一人者であるUri Aron氏の講義と自分の研究へのフィードバックは非常に有益なものであった。普通の国際学会とは違い、彼のような海外にいる近い分野の著名な研究者と深く議論する機会が得られたのは非常に大きな収穫であった。また、プリンストン高等研究所(IAS)に行く機会ということで、同研究所のシステムバイオロジーグループに対してのセミナーを行った。一般的な国際学会では、多くの講演やポスター発表などが同時並行に行われることが多いなかで、このように深い議論をすることができる機会は非常に貴重であると思う。

サマースクールとは直接の関係はないが、プリンストン高等研究所では毎日15時からアフタヌーンティーが行われている。これは、研究所にいる人間は誰でも参加でき、素粒子物理学、社会物理学、生物物理学の研究者が世間話や研究についてなど様々な話をしていった。総合文化研究科のように様々な研究分野が集まっているところで出来れば、非常に有益な機会となると予想され、是非検討していただきたいと思う。

最後に、資金支援をいただいた研究科および研究室に対しての感謝を述べさせていたきたい。ありがとうございました。



PITP参加者の集合写真 (60人程度の参加者と毎日5,6人の講師が参加した)